

今週のメニュー

■トピックス

- ◇「第58回全国中学校理科教育研究会」が山形で開催
－「調べてわかるプラスチック」と「プラスチックサンプル」を配布－

■随想

- ◇年齢と呼称（連載48）

金沢工業大学大学院・東京大学大学院 上野 潔

■編集後記

■トピックス

- ◇「第58回全国中学校理科教育研究会」が山形で開催
－「調べてわかるプラスチック」と「プラスチックサンプル」を配布－

来年度から中学校1年生の理科学習に「プラスチック授業」が始まります。そこで、日本プラスチック工業連盟、社団法人プラスチック処理促進協会、塩化ビニル環境対策協議会と当協会が協力して、先生向けのワークノート「[調べてわかるプラスチック](#)」が大日本図書から出版されました。

並行して、ワークノートで紹介されている実験に使う汎用プラスチックPE、PP、PVC、PSの4種類とPETのサンプル見本を(株)アカディの協力を得て準備しました。

8月3～5日に山形で開催された全国の中学校理科の先生方が集まる「第58回全国中学校理科教育研究会」で、これらの資料を配布して、授業に活用して頂こうという話があり、急遽、参加される500名分を準備しました。



この大会は「自然に進んでかわり、生きる力をはぐくむ理科教育」の主題で、自然を尊ぶ姿勢を土台として「科学の目で見つめ、未来を創る」ことが、知識基盤社会を支える「生きる力」を育むことにつながるという考えで設定されたと聞いています。

当日、開催された会場の大日本図書のブースで、指導頂いた山口先生にも手伝って頂き、ブースに訪れた先生方に手渡して頂きました。先生方からはタイムリーな教材と感謝され、今後の授業に活かして頂けるものと願っています。



山口先生(写真右)手ずから配布

今後、このような機会があれば、是非、全国の中学校で活用して頂きたく、合せて、実際にプラスチックを扱っている者の立場から、「[プラスチック出前授業](#)」も準備していますので、皆様のご連絡をお待ちしています。(了)

早稲田大学大学院ファイナンス研究科教授の川本裕子先生が、「年齢情報へのこだわりが生む弊害」と題したコラムの中で「日本の新聞や雑誌では、人のプロフィールには年齢が書かれている。年齢は必須情報として扱われているとあってよい。名前は仮名表記であっても年齢は明記される。理由について関係者に尋ねても「慣例だから」と言うばかりで、腑に落ちる説明を受けたことはない。」との記述がありました。歳をとることは経験を経たことの証拠であり好ましいのですが、他方で製品寿命などを考えるとあまり古い製品は性能が心配です。人間の場合は年代によって受け取り方が微妙ですね。

私がかつて所属していた会社は、工場では役職に関係なく全員「さん」で呼ぶ習慣になっていました。私は上司の係長を「**さん」と呼びますが、上司が私を呼ぶときはごく自然に「上野君」でした。しかし本社勤務になると「**部長」「**常務」などと役職名で互いを呼ぶのが普通になっていました。文書ではさらに「殿」をつけるのです。建前では「さん」なのですが、自分が役職名で呼ばれてみると気分が良いらしいのです。これは呼ばれる側が指摘しないと、なかなか直らないのです。

元有名選手であった野球解説者のK氏が、放送で他球団の選手までも「**君は」というのを苦々しい思いで聴きました。他方で、若い選手に対しても「**選手は」「**投手は」と呼ぶ解説者もいて、こちらをさわやかで好ましく思いました。スポーツの世界では、1日でも後から入団したほうが「君」で呼ばれるそうですが、それはチーム内や職場内に限るべき習慣でしょう。

最近のテレビ放送では、人の呼称は大学教授でも政治家でも芸能人でも一律に「さん」になりました。しかし現実の社会では政治家や弁護士は「先生」といわないと機嫌が悪くなるようです。学会では、古くから文章上での呼称は「君」ですが。

大学や病院では、相手が若い人でも「**先生」と呼んでも違和感がありません。「**君」と呼んでおかしくないのは、学校の先生が学生に対して呼ぶときだけだと思います。もっとも私の場合は講義する相手の大半は社会人大学院生ですから当然「さん」と呼んで全く違和感はありません。たとえ教授であっても、教え子が社会人になれば「さん」と呼ぶほうが気持ちよく感じます。もちろん同窓会などで大会社の社長を老恩師が「**君」と呼ぶのはかえって微笑ましいのですが。

もう一つ、日本で奇異な習慣は、組織の呼称に「さん」をつけて呼ぶ風習です。「**会社さん」「NHKさん」「自民党さん」などの呼び方です。業界の会話のなかでも「御社」とか「経済産業省さん」などの用語を使います。文書では「貴社ますますご清祥のことと・・・」など書きますが、話し言葉で「お会社」と呼びかけるのにはびっくりしました。他方で委託先や下請け企業に対しては、呼び捨てにされているようですから、組織に尊称をつける基準は何とも奇妙です。

入社試験では受験する会社名を呼び捨てにするなど就活で教育されているのでしょう。採用試験の面接で、「御社を志望する理由は、、、でございます」などと学生から言われて、会社の採用担当者は気持ち悪く感じないのでしょうか。

組織名に尊称をつけるのは、恐らく日本だけではないでしょうか。欧米では、個人名には犯罪の容疑者でさえも必ず「Mr.＊＊」「Ms.＊＊」等、タイトルをつけて呼びますが、会社名に「Mr.Ford」「Mr.Microsoft」などと呼ぶでしょうか。

昔話ですが、環境報告書の中の文章で、「＊＊＊会社殿から受注した」と記述した部分について、第3者の査読者から組織名に「殿」をつけるのはおかしいと指摘を受け、眼から鱗が落ちる思いをしました。企業の中に居ると無意識に使っていた奇妙な習慣だったのです。

「呼称なんてどうでもいいよ。相手が気持ちよく感じればそれが一番さ」が正解かもしれませんが。だから世の中の威張りたい人に助言します。相手を「君」と呼んで得することはありませんよ。中国や韓国では年上の人には皆「先生」これは文字の通りで分かりやすい習慣ですね。(了)

前回：[「組織の匂い」\(連載47\)](#)

■ 編集後記

今年の夏は、「節電のために」との理由で、いつもより夏休みも取りやすかったのではないのでしょうか？ 私たちの協会でも一斉休暇を実施するなど特別な夏でした。その夏休みもあっという間に過ぎ去ったような気がします。時の過ぎるのを早く感じるのは、歳のせいばかりではなく、新しい情報が脳に入ってこないからだと聞いたことがあります。トピックスで紹介された中学校の理科教育研究会にご参加の先生方のように、ときどき新しい情報に触れ、少しでも時の流れをゆっくり感じられるようになればいいと思います。(HI)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp